

兵庫県立大学第3期中期計画業務実績に関する評価結果(概要)

兵庫県立大学評価委員会(委員長:石川啓、元関西大学長)が、第3期中期計画(H22~H24)業務実績の進捗状況について評価し、あわせて今後の大学運営への提言を取りまとめた。

第3期中期計画の評価:「全体として概ね計画どおり実施している」

【教育の一層の充実・強化】

評価できる取組

- ・経済学部専門教育の6~7割を英語で学べる「国際キャリアコース」の開設
- ・防災教育ユニットによる防災教育の推進
- ・「京」の立地に合わせたシミュレーション学研究所の開設
- ・加藤・Mの大学とのダブルディグリープログラムの開設
- ・ピコイコジ-専攻、災害看護グローバルリーダー養成プログラムの博士課程リディングプログラムへの採択

改善が求められる取組

- ・学生ニーズの調査や卒業生の動向把握
- ・英語教育や情報教育の充実
- ・FDの充実等による教員の教育能力の向上
- ・学生の基礎学力を高める教育の充実
- ・学生の生活・就職支援の充実

【社会貢献の積極的な展開】

評価できる取組

- ・地域との連携・協働活動に全学的に取り組む地域創造機構の開設
- ・学生が主体となって地域との連携活動に取り組むIC・ヒューマン地域連携センター(環境人間学部)の開設
- ・山南スタジオを拠点とする活動等自治体との連携協定による活動の展開
- ・明舞まちなか跡等の地域再生をめざす活動の展開

改善が求められる取組

- ・地域のニーズに対応した生涯学習支援の新たな展開
- ・産学連携の全体的展開の強化

【研究のさらなる発展・高度化】

評価できる取組

- ・県内に集積する高度な研究基盤を活用した先端研究の推進
- ・博士課程リディングプログラムに採択された次世代ピコイコジ-研究の推進
- ・東北大学との連携によるナノマイク構造科学研究センターの開設
- ・グリーンイノベーション拠点形成をめざす研究の推進

改善が求められる取組

- ・研究の企画・立案や重点化、研究資源の重点配分を行うための全学的な体制整備
- ・外部資金の獲得額増加のための支援体制整備と意識改革
- ・わかりやすい研究成果の公開・発信の工夫
- ・「京」と連携した研究の推進と人材育成

【自主的・自律的な管理運営体制の確立】

評価できる取組

- ・公立大学法人化の推進

改善が求められる取組

- ・効果的・効率的でシンプルな執行体制への再構築
- ・教育研究環境を魅力あるものとするための計画的な整備
- ・分散するキャンパスの効率的に運営するための情報化、遠隔システムの効果的活用の推進
- ・研究費間接経費の効果的配分を行う仕組みづくり
- ・知名度の向上、ブランド力強化のための戦略的広報の展開

評価の視点

- 1 業務運営について、専門的・客観的な立場から、多角的な視点で総合的に検証
- 2 今後も県立大学の個性・特色としてさらに充実させていくべき取り組みと、改善を図るべき取り組みを重点的に検証
- 3 県立大学法人化後の大学運営を見据え、法人化のメリットを活かした一層の発展を期待し、統合後の取り組みを総合的に検証
- 4 伝統や強みを活かしてさらに発展していくよう、中長期的な視点から今後の方向性を提言

今後に期待すること

- 1 グローバル社会で活躍できる人材の育成
語学力に加え、論理的な思考力と積極性を持つグローバル人材の育成をめざす教育が構築され、アジアの中で存在感を発揮する大学となることを期待
英語等の語学教育の充実
学生の基礎学力の向上のための教養教育の強化・充実
理系学部・研究科をはじめとする留学生の受入拡大と、育成ビジョンの確立
ひょうごの強みを活かした教育の積極的展開
- 2 高度な研究基盤を活かした先端研究のさらなる推進
高度な研究基盤を活用した先端研究が、県立大学の特色のひとつとして広く認知され、世界レベルで評価される国際的研究拠点となることを期待
Spring-8, SACL, 「京」等の研究基盤を活用し、他大学・研究機関とも連携した特色ある先端研究の一層の推進
- 3 地域に根ざした教育・研究と社会貢献活動の推進
地域資源を活用するための研究や地域課題の解消をめざす活動、それらを担う人材育成をさらに充実させていくことを期待
地域資源の活用や地域課題の解消をめざす研究の推進と、地域資源の保全・活用等をマネジメントする人材の育成
各キャンパスを拠点に、教員・学生の総力を挙げた地域連携活動の展開
県下全域での産学連携活動の展開によるひょうごのものづくりへの貢献
- 4 ブランドイメージの確立と浸透
法人化を契機にガバナンスを強化し、戦略的運営による大学の個性・特色の明確化によりブランドイメージが確立されることを期待。また、戦略的な広報活動の展開や伝統をイメージできる名称の検討などにより、ブランドイメージの浸透が図られることを期待
法人化によるガバナンスの強化と効果的・効率的な法人本部組織の整備
社会のニーズに機動的かつ的確に対応する大学改革の推進
創立10周年、創基85周年等記念の年を契機とした戦略的広報の展開

県立大学統合の成果についての評価

【客観的指標等からの評価】

- 1 志願者倍率、偏差値については、統合前とほぼ同様の水準に回復
- 2 就職率については、統合前と同様全国平均を上回る90%台後半でほぼ推移
- 3 研究については、「材料科学」「工学」「数学」の分野で高い評価を得ている
- 4 外部資金は統合前の平成15年度と比べ、件数で1.9倍、獲得額で1.5倍と順調に推移
- 5 総合性の発揮、地域性の強化、各学部等の個性化・特色化に向けた取り組みが展開されており、一定の成果を上げている

【現状の評価】

大学を取り巻く状況が厳しさを増す中で、客観的な指標から見る限り、県立大学は統合前と変わらぬ存在感を示しており、統合には一定の成果があったと評価できる。しかし、ほぼ統合前の水準を維持という数値で満足すべきでない。

【取り組むべき課題】

- 1 総合力が発揮しやすくなった反面、旧3大学が持っていたブランドイメージが薄れている
- 2 キャンパスが分散していることにより、学生や教員の一体感が醸成されにくく、効率的な運営が図られにくいというデメリットが完全に克服できたとは言い難い
- 3 教育改革や教育の質保証について全教員が意識を共有して取り組み、社会のニーズに応える人材の育成を図るべき

より一層魅力ある大学としてさらに発展されることを期待し、以上のとおり提言する。
法人化を契機に、理事長・理事会のリーダーシップのもと、果敢に大学改革に取り組まれることを期待する。